

第 18 話<かねふき唄>の要約と参考資料

第 18 話<かねふき唄>の要約

ファイゴのリズムに合わせた「かね吹き歌」には、床屋の上を金の神が飛んでいるといった詞、三弥が府内から連れてきた若妻が、薬缶でわかした茶碗酒を飲むといった詞にまじって、夏の夜降る霜で娘の黒髪が白くなった、という謎めいた詞もまじっています。

第 18 話<かねふき唄>の参考資料

18-1 かね吹き歌の歌詞

土呂久かな山 誰が掘り初めた
府内山弥どんのヨー 掘り初めた
トコトウトウ トコトウトウ
土呂久かな山 かね吹く音は
七里聞こえてヨー 五里ひびく
トコトウトウ トコトウトウ
床屋千軒 みな吹きたつりや
空を舞う鳥ヨー みな落てる
トコトウトウ トコトウトウ
床屋大工さんは 鬼かな蛇かな
かねの鉄の棒をヨー 振り回す
トコトウトウ トコトウトウ
かねはわき出る 薬缶はたぎる
府内新造はヨー 茶碗酒
トコトウトウ トコトウトウ
鳥が舞う舞う 床屋の上を
鳥じゃござらぬヨー かねの神
トコトウトウ トコトウトウ
かねはわきでる 薬缶はたぎる
府内新造はヨー 茶碗酒
トコトウトウ トコトウトウ
土呂久かな山 山弥どんの庭にや
夏の夜でさえヨー 霜が降る
トコトウトウ トコトウトウ
霜じゃござらぬ 十七、八の

娘白髪をヨー 霜と見た
トコトウトウ トコトウトウ